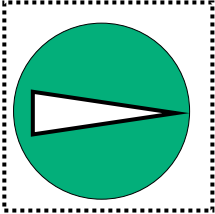


屋久島世界遺産地域モニタリング計画 モニタリング項目の評価シート（案）

（評価者：ヤクシカWG）

モニタリング項目	No. 10 外来種等による生態系への影響把握		
実施主体	林野庁		
対応する評価項目	D. 生物多様性が維持されていること		
モニタリング手法	現地踏査、既存の報告書を通じてアブラギリの侵入状況などを把握		
評価指標	No. 14 外来植物アブラギリの分布状況		
評価基準	アブラギリの生育分布域が拡大していないこと		
評価箇所等	国有林		
モニタリング頻度	平成 23 年、29 年		
評価 	評価基準への適合性	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 判断不可	<input type="checkbox"/> 非適合 <input type="checkbox"/> 著しく非適合
	改善/悪化の傾向	<input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 情報不足	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 悪化
	[評価対象期間]2012 年～2021 年		
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施主体により効率的な巡視、駆除が実施されている。 ・日当たりの良い道路や林道沿い、河川沿い等ではアブラギリの侵入している状況が継続している。 ・過年度（2011 年度と 2017 年度）との比較が可能な西部地域では分布地点数がほぼ横ばいであった。 ・2015 年度に駆除方針が整理され、それに基づき駆除が実施されている。 		
今後に向けた留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・主に林冠形成木の伐採や倒壊等により生じたギャップにアブラギリの侵入、定着が見られるため、間伐後の駆除や照度管理等を慎重に行う。 ・2017 年度に設立した屋久島外来種対策連絡会の中で、アブラギリについても駆除方法や分布状況等の情報共有を図っていく。 		

※「今後に向けた留意事項」には、評価を踏まえたモニタリングに関する留意事項（例：現状のモニタリングの継続の必要性、手法の工夫、モニタリング項目や評価指標の追加の必要性等）について記載する。

No. 10 外来種などによる生態系への影響把握

評価指標 No. 14 外来種アブラギリの分布状況（バックデータ）

1. モニタリング手法

- ・アブラギリの生育適地である日当たりの良い道路や林道沿い、河川沿い、山腹崩壊地、土砂堆積地、駐車場のうち国有林を対象とした現地踏査、既存の報告書の分布情報から、アブラギリの分布図を作成し侵入状況などを把握

2. モニタリング地点

- ・平成 23 年度は、道路沿いや林道沿いを含めた全島で分布状況調査を実施し、平成 29 年度は西部林道沿いの一部の開けた場所の群生が見られる西部地域で分布状況調査を実施

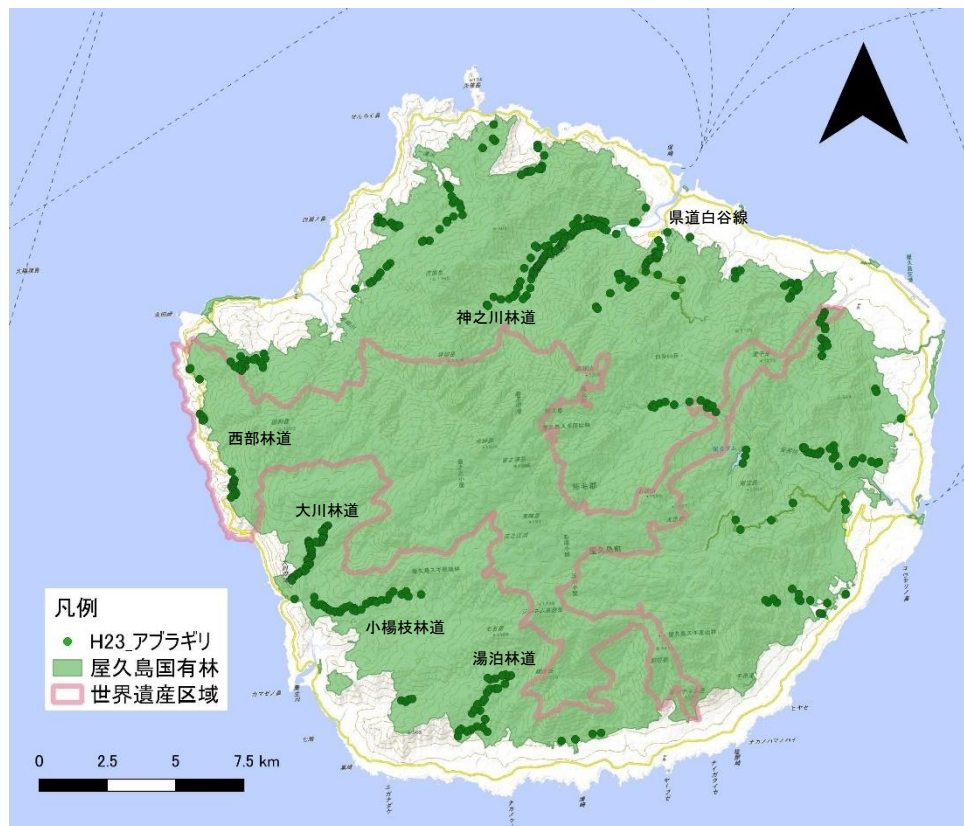


図 1 平成 23 年度アブラギリ分布確認地点

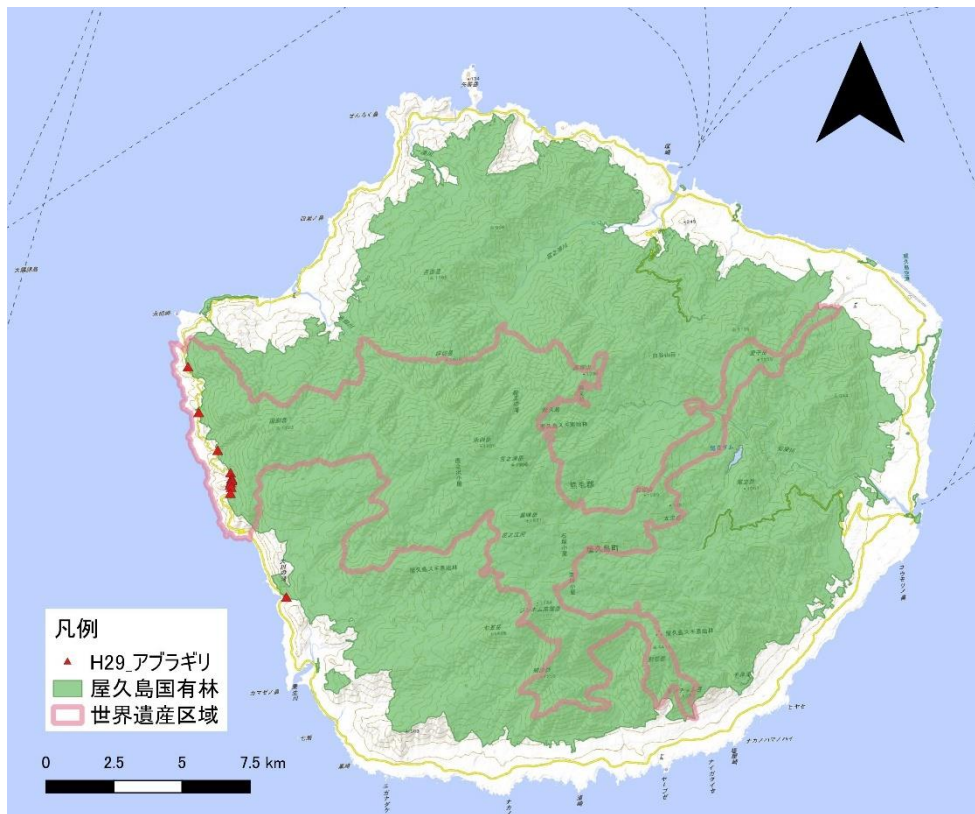


図 2 平成 29 年度アブラギリ分布確認地点

3. これまでの結果

- 分布状況調査の結果、アブラギリは西部林道、大川林道、小楊枝林道、湯泊歩道、神之川林道、県道白谷線に群落化した林分が見られ、集中して分布している。
- 神之川林道については、1994 年の伐採跡地と、伐採後 16 年経過したアブラギリの生育地を比較したところ、伐採跡地の 3～4 割にアブラギリが侵入している。
- 過年度（平成 23 年度と平成 29 年度）との比較が可能な西部地域では分布地点数がほぼ横ばいであった。
- 平成 29 年度より屋久島外来種対策行政連絡会が設立され、連絡会・現地検討会等を通して、国、県、地方自治体等でアブラギリを始めとする外来種の駆除方法や現状等の情報・認識を共有している。

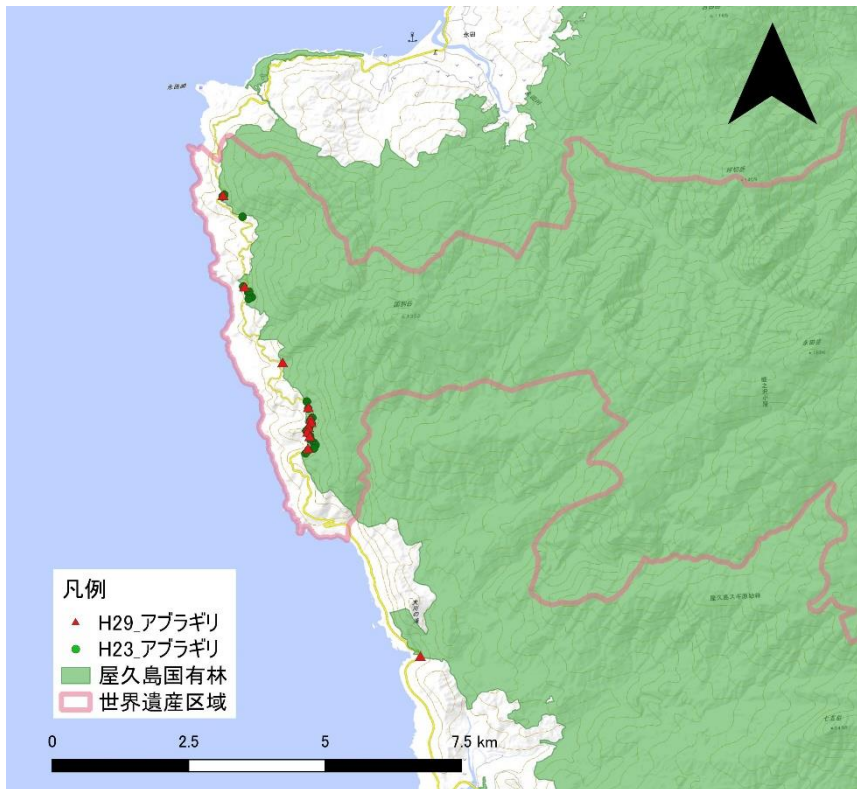


図 3 西部地域における平成 23 年度と平成 29 年度のアbrugiriの分布状況